

● 「幸せの森」市民整備構想提案書の基本構想とは

【基本コンセプト】

かつて京浜工業地帯の発展を支えてきた新鶴見操車場を 21 世紀の未来都市川崎の象徴となる「幸せの森」として再生する。

- ◆ 50 年、100 年先を見据えて、将来の人々にとっても健康で豊かに暮らせる都市環境を再生する
- ◆ 操車場跡地全体の周りは「緑の森」で都市の背骨を創り、統一性をもった土地利用を図る
- ◆ 災害時の被害が深刻な南部地区の広域防災拠点として「森と広場」を骨格に安全な都市を創る
- ◆ 市民利用施設については、そこに生活する人々のニーズや文化・歴史を大切にし、これまでの前例や価値観にとらわれずに、様々な方の知恵や技術・労力・まちづくりへのパワーを活かし、「自然と人が共生する都市」づくりを市民主導により運営する

【めざす森の機能】

■ 市民の命を守る「森」

- ・地震被害の 70%が南部地区に集中するため、災害時には広域避難所として機能できる「防災拠点の森」として位置づける
- ・操車場跡地全体を防火樹林帯で囲むことで、災害時の防火度を高め「市民の命を守る森」とする。

■ 生態系としての「森」

- ・操車場跡地全体の周辺を 10m（最低でも 5m幅）の生態系の緑で囲むことで、鳥たちが休息でき「都市の中のサンクチュアリー」を創る。また、そこを拠点に夢見ヶ崎公園、鶴見川、矢上川、多摩川を結ぶ「緑の回廊」を創り、多様な生物が棲息できる「生態系の森」として緑の質を高める。
- ・土地本来の幼苗により「ふるさとの木によるふるさとの森」を創る。

■ 参加の「森」

- ・地域資源を活かし、子どもたちの参加による植樹祭を環境共生都市をアピールするイベントとする。
- ・地域資源を活かし森づくりを進める。

- ・環境テーマに先駆的に取り組んでいる研究者、大学生、企業、市民団体等と協働し、50 年、100 年先を見据えた、21 世紀の環境共生型モデル都市を創る。

■ 環境教育としての「森」

- ・子どもも大人も森の中で様々な「参加・体験」することによって、人間も他の生物と共存して生きていることに「気づき」、自然との付き合い方を学ぶ環境教育の場として位置づける。

■ コミュニティーの拠点としての「森」

- ・幸区を東西に分断してきた操車場跡地は、高齢な人も障害のある人も、子どもも大人も、外国人も、すべての人が集い・憩えるコミュニティー拠点とする。

■ 風の道としての「森」

- ・都市化によるヒートアイランド現象や大気汚染を緩和し、クリーンな自然の風を感じられる「風の道」としての機能を持たせた「森」にする。